



当然勝つことが重要ですが、たとえば技術的な部分で、ステップで抜かれてしまうなら抜かれないように一歩早く足を出して詰めてみるとか、なかなか基準値を超えられないきついフィットネスの練習をクリアするために工夫してみ

Q3 桶谷主将にとつての「MUST WIN」とはどついついものですか

それから、今までは自分のことだけ考えてやってきましたが、チームや仲間の規範になるように心がけています。背中引張れるような主将でありたい、そうしていかないと、この役割は務まらないと思っています。

Q4 卒業後の夢や目標があればお聞かせください

自分のポジション(フランカー)は外国人選手や、日本人でも体格の大きい選手が務めることが多いんです。日本の最高峰のリーグや、2019年のワールドカップ等で、170cm台の選手が出場することは本当にすごいことだと思っています。卒業後もラグビーを続けるので2019年を目標にやっていますし、その舞台に170cm台の

Profile

ラグビー部 Rugby football club

1923年創設、関東大学対抗戦優勝16回、大学選手権優勝12回、日本選手権優勝1回という実績と伝統ある名門。昨年は帝京大学と同率での対抗戦優勝、大学選手権では5年ぶりに準決勝に進出しベスト4に。「MUST WIN」というスローガンの下、4年目を迎えた丹羽政彦監督体制で悲願の日本一達成を目指す。

Q1 チームの仕上がり、意気込みをお聞かせください

夏合宿ではチームの形としてのトライというのが結構あったので、10月の筑波、11月の帝京、そして早稲田というビッグゲームで、しっかり戦える手応えがあります。昨年は帝京大学と同率優勝だったので、単独優勝が目標です。個人的にも10年間のラグビー人生の集大成を出せるようなものになりたいですね。

Q2 大学生活を通じて成長を実感することはありましたか

小中高とラグビーをやってきて自分の売りはアタックだと思っていたのが、大学に入ってコンタクトレベルが一段上がって、そういった中でディフェンス力が一番変わったところだと思っています。アタックだけじゃない選手になれたと思っています。



とか。もちろんラグビーはコンタクトスポーツなので逃げないことが前提ですが、そうじゃないいろいろな局面で逃げないことが「MUST WIN」だと考えています。

Q5 明大関係者にメッセージをお願いします

自分が立っていることが目標です。明治の先輩方は、明治は強く当たり前、大学ラグビーを牽引するラグビー部だという認識があると思いますが、ここ数年選手権は優勝できていない現状があります。ですが、今年も明治らしい、見ていて楽しいと感じてもらえるような「前へ」のラグビーをして、なおかつ昨年の記録を超えられるような、「MUST WIN」できるラグビーをしていきたいと思っていますので、ご声援お願いいたします。



前へ! Go Ahead, Athletes of MEIJI! Vol.01
明大アスリート

ラグビー部

桶谷 宗汰 SOTA OKETANI

経営学部4年(常翔学園出身) / 身長178cm、体重99kg
ポジション: No8 / FL

紫紺の旗の下に集まった若きアスリートを紹介する、新企画「前へ! 明大アスリート」。第1回は、長き伝統を受け継ぐラグビー部の主将、桶谷宗汰さんに、いよいよ始まった関東大学対抗戦、そして大学選手権を見据えた現在の心境を伺いました。

写真提供: 明大スポーツ新聞部

